

校内研修計画

甲州市立祝小学校

1 学校課題

祝地区は、自然豊かで葡萄栽培、ワイン作りを中心とした地域である。学校と地域との結びつきが強く、学校教育に地域の方は理解を示し、とても協力的である。温かく優しい地域の方に見守られながら、児童は明るく元気に生活している。

ここ数年、本校の全国学力・学習状況調査では、「自分の考えを書いたり、説明したり、発表したりすること」「自分の解き方や考えが相手に伝わるように話したり書いたりすること」「文章を的確に押さえ、書いたり伝えたりすること」「家庭での学習時間の確保と生活リズムを整えること」が、課題として挙げられている。また、NRT 検査結果から課題を把握し、課題解決のために取り組みを行ったが、「人の話をしっかり聞くこと」「話し合い、互いに考えを深めていくこと」「文章を正確に読み取り立式すること」「式の意味を理解すること」が、課題として挙げられている。

一昨年度からの校内研究で、「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」に迫るために、「一読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して」のサブテーマに沿って研究を進めた。この2年間の実践で言語能力向上が見られているが、QUの言語活動に関する項目では、改善されない点もあった。市販テストの結果では、多くの領域で成果が得られているが、祝小グランドデザイン(知)「授業の内容がわかる」85%以上に到達しない箇所もあった。「A話すこと・聞くこと」「C読むこと(説明文)」については、85%前後の学年が多かったことで、さらに児童に力をつけさせたい領域である。また、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、グループ活動やペア学習、話し合い活動など、授業中における子供の活動を制限せざるを得ない状況であることも課題である。以上のことから、言語能力の向上が、学校課題である。

2 研究主題

「学習の基盤となる言語能力を身に付けた児童の育成」

一読む・書く・聞く・話す・話し合う等の言語能力向上に向けた授業づくりを通して一

3 主題設定の理由

本校では、「心豊かで、たくましく生きる子」を学校教育目標に掲げ、重点目標として「やさしい心で、自分から気づき考え、やりぬく子」を掲げている。めざす子ども像として、「未来社会を心豊かにたくましく創造する力を育むために」を副題に、「自ら学び自ら考える子(知)」「豊かな心をもつ子(徳)」「健康でたくましく生きる子(体)」「地域と共に生きる子(地域)」の4つが設定されている。確かな学力をつけるために、「主体的・対話的で深い学び」のある授業をすること、豊かな心を養うためにA(当たり前のことを)B(ぼつちり)C(ちゃんとやる)の取り組みをすること、健やかな体を育むために望ましい生活習慣の形成・体力向上・食育と健康・安全教育をすることを、進める。

新学習指導要領の三つの柱の一つである「学びに向かう力・人間性等」の涵養が、本校の数年来の課題を解決するための手立てととらえ、平成30年度・令和元年度と道徳教育の研究をした。児童の実態を把握し手立てを打つことはできたが、大きな成果とまでは言い難い結果であった。新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童に生きる力を育むことを目指す」とし、「言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要としつつ各教科等の特徴に応じて、児童の言語活動を充実する」としている。

昨年度までは、これまでの研究を継承しつつ、本校の課題である「言語能力の向上」を、国語科中心に進めた。授業と日常的な取り組みを行う中で、教職員、児童ともに、学習の基盤となる言語能力向上に向かうことができた。しかし、「話すこと・聞くこと」、「読むこと(説明文)」については、まだ課題が残る。

そこで今年度も昨年度の研究をもとに、「自分の考えが相手に伝わるように書いたり、説明したり、発表したりすることができる児童」「人の話をしっかり聞き、話し合い、互いの考えを深めることができる児童」「文章を正確に読み取り、的確に問いに答えることができる児童」を目指し、継続研究を行う。昨年度からGIGAスクール構想によるICT端末が児童に一人一台配布され、授業の中で活用している。ICT端末を効果的に活用しながら、どのように言語能力の向上を図っていくかについても考えていきたい。また、学習の基盤づくりとなる甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの取組とも連携しながら、更なる言語能力の向上を目指していきたい。以上のことから、本研究主題を設定した。

4 研究の具体的内容と方法

- (1) 授業研究
 - ・授業研究
 - ・一人一実践授業
 - ・教員相互の授業参観
- (2) 各種調査結果の分析・課題把握・活用
 - ・全国学力学習状況調査
 - ・QU検査の言語活動意識項目
 - ・CRTテスト
 - ・教育課程説明会の還流報告
- (3) 研修
 - ・ICT端末活用についての学習会
- (4) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとの連携
 - ・甲州市「確かな学力」育成プロジェクトをうけた授業改善
 - ・WEBQUの実施と分析・活用の充実
 - ・家庭学習の推進・アウトメディアチャレンジ

5 年間研修計画

No.	月日		研究内容	担当者	備考	TC 要請
1	4	5	今年度の研究の方向性について	研究主任		
2	4	13	今年度の研究主題・研究方法について	研究主任		
3	4	20	今年度の研究主題・研究方法の決定	研究主任		
4	5	11	一人一実践授業計画	ブロック長		
5	5	25	WEBQUについて	研究主任		
6	6	8	第1回QUの分析	ブロック長		
7	6	22	QU言語活動意識項目について方針発表・共有 QU分析と対策について情報共有	研究主任 学級担任		
8	7	6	ICT端末活用についての学習会 ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）①	情報主任 ブロック長		
9	8	18	教育課程説明会の還流報告	各担当		
10	9	7	ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）②	ブロック長		
11	9	14	全国学力学習状況調査結果分析と課題解決に向けた 取組について	教務主任 研究主任		
12	10	5	ブロック別学習会（授業案検討・教材研究等）③	ブロック長		
13	10	26	研究授業指導案検討（全体会）	授業者		
14	11	2	第2回QUの分析	ブロック長		
15	11	9	研究授業・授業研究会	授業者		○
16	12	7	QU言語活動意識項目について結果考察 研究の成果と課題アンケートについて	研究主任		
17	2	1	研究のまとめ	研究主任		
18	2	8	研究紀要作成について CRTの結果分析・課題把握・対策	研究主任		
19	3	1	研究紀要の作成	研究主任		